

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 粟島浦小中学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☒ その他（小中併設校）

所在地 〒958-0061
新潟県岩船郡粟島浦村162

E-mail seabream@iwafune.ne.jp

Website http://iwafune.ne.jp/~seabream/

児童生徒数 男子 12名 女子 10名 合計 22名
 児童・生徒の年齢 7歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☒ 防災
- ☒ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☒ そのほか（社会性育成）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

栗島浦小中学校は、離島にあり、中学校を卒業し高校に進学する際には、家を離れ、島外で生活することになる。15の春には、自立を求められるため、社会性の育成が急務である。離島独自の環境を理解し、伝統文化の継承、島民と一体となった活動などが求められる。また、人口の減少を食い止め、学校を存続させるためにも、村や他団体と一体となった取組にも参加する必要がある。今年度末は、全校児童生徒22名中、島生まれ島育ちの子が7名、しおかぜ留学生9名、移住転入6名という構成になった。

そのような中で、今年度行ってきた生活科・総合的な学習の時間や学校行事、児童生徒の活動については以下の通りである。

1. 伝統ある地場産業の体験学習

◇わかめ採り

栗島浦小中学校伝統の行事であるわかめ採りの体験学習を今年度も行った。前年の11月に全校の児童生徒でわかめ養殖用のロープにわかめの胞子をつけたタコ糸を巻き付け、村民の協力を得て、船で沖合に沈めた。わかめ採りは4月11日に実施した。村民や保護者のボランティアの力も借りながら、養殖したわかめを引き上げ、包丁で切り離し、わかめの葉と茎、めかぶの部位に切り分けた。わかめは、乾燥小屋に干し、中学生が翌日、干してあるわかめをくぎで引き離すわかめ割きを行った。翌々日の夜、保護者と土産物屋の方に協力してもらい、乾燥したわかめを小さく切り分け、商品用に袋詰めを行った。できた乾燥わかめ、めかぶ、茎わかめを販売し、収益を今年度の児童生徒会費として活用した。



わかめとりの様子

わかめとりの感想

小学生女子

わたしは、はじめてのわかめとりでした。めかぶをくきからとるさぎょうや、くきをスライスするさぎょうをしました。

いちばんたのしかったさぎょうは、めかぶをとるさぎょうです。

はじめてでわからなかったけれどみんなが、おしえてくれてじょうずにできました。こんどはもっとがんばりたいです。

それと、さいしょに見たときにまえにうえたのがこんなに大きくなっていたのでわたしはとてもびっくりしました。

むずかしかったのは、めかぶをとるさぎょうです。なぜかというつくきもしなければならぬからです。らい年もがんばりたいです。

◇大謀網体験

6月21日に中学生全員で大謀網体験を行った。漁師の方々のご厚意で、栗島の地場産業である大謀網漁を見学、体験することができた。

大謀網体験の感想

中学生女子

私は今回初めて、大謀網の様子を見学しました。漁師の方々のチームワークのよさに驚きました。漁を成功させるには、船に乗ってる一人一人が責任を持ってこなすことが必要ということが分かりました。栗島で漁をしている様子を見ることができてよい経験になりました。



2 小中合同行事・小中連携による社会性育成の取組

◇運動会

9月3日に小中合同運動会を実施した。1学期から合同で準備を進めてきた。総務部が中心となり、大会スローガンの作成、小学生が中心となって製作したパネル、中学生が中心となって行った応援など毎日遅くまで練習を重ね、本番を迎えた。

当日は、小中合同の応援合戦をはじめ、小中併設校らしい全校種目等、それぞれが活躍できる場がたくさんあった。

◇文化祭

11月3日に開催した。当日は村の文化祭とも共催であり、村の一大イベントとして多くの村民が学校を訪れた。

当日は、作品の展示のみならず、児童生徒の音楽発表、演劇、PTAによる合唱、また栗島合唱団（一般村民、教職員、小中学生のいずれも希望者）の発表や、中学生による映像制作プロジェクトなど多様な催し物が行われた。特に演劇の発表は、9月から2か月近い期間を通して、小道具づくりや演劇の練習に励んだ。文化祭の振り返りアンケートを行ったところ、「責任を持って役割に取り組んだ」「芸術や音楽に親しんだ」「準備や当日の仕事に進んで取り組んだ」「仲間と協力してできた」生徒の割合が90%と高かった。反面、自分が役立っていると感じていない生徒の割合が30%、みんなと仲良く活動できなかった20%など、仕事や与えられた役割は果たしたものの自己有用感や協調性などに課題が残った。



小中合同の演劇

3 他地域の学校との交流学习

○小学校

◇社会見学（5月17日）

離島のため、対岸の村上市方面に、社会、生活科、体験学習を兼ねて行っている。村上市内の規模の大きな学校を訪問し、大人数の中で授業を受け、給食を共にし、昼休みにいっしょに遊んでいる。ここ数年は村上小学校と交流を行っており、今年度も訪問させていただいた。

ここ数年ずっと関わっているためか、栗島浦小の子供たちの顔と名前を覚えてもらっていて、抵抗なく一緒に遊ぶことができた。

社会見学で心に残ったこと

小学生男子

（前略）時間がなかったので、急いで村上小へ行きました。4時間目は算数でした。算数が終わり、みんなで給食を食べました。栗島で食べる給食と少しちがいました。そうじをして、みんなと別れました。短い時間でしたが、10人以上友だちができました。

次は歩いて歴史文化館や若林家住宅などへ行きました。やりやよろいなどにはいろいろな意味がこめられていることを知りました。客間や小間、勝手口などいろいろな名前が付いていました。とてもおもしろくて感動しました。今回学んできたことを何かに生かしたいです。

◇交流学習（１０月５日～７日・２泊３日、小学生全員参加）

＜村上小学校との交流。農家の宿泊体験＞

離島で冬閉ざされ、どこにも行けない環境を変えていこうと昭和６３年から山間部の小学校との交流を開始した。冬はスキーで本土の学校に行き夏は相手の学校を迎え入れ海水浴等を行う。スキーの交流は朝日村の葡萄小と行っていたが、学校が閉校になったため、次の大長谷小との交流を始めた。その後大長谷小の閉校に伴い、相互交流とスキー学習は終了となった。現在は、春と秋に村上小学校との交流という形で規模の違う学校等の交流に変わった。また、秋の交流学習では胎内市の農家に宿泊する農泊を行い、農家での体験や食事作り、受け入れ家族との触れ合いを通して、社会性を育んでいる。



○中学校…関川中との交流学習５月（２泊３日、中学生全員参加）

関川中学校との交流は、前身の関谷中学校と昭和６３年に開始し、相互訪問、交流を行ってきた。途中他校との交流をしていた時期もあったが、平成２４年５月から現在のような形での交流が再び始まった。今年度は５月に２泊３日で、関川村の旅館に中学校の全校生徒と職員が宿泊した。生徒はそれぞれ学級に所属し、授業や給食、部活動、生徒会行事など、関川中の生徒と同じように学校生活を過ごした。また、夏には関川中の生徒会代表が来島し、キャンプやその他の交流体験を行った。このような学習の機会を生かし極小規模校のハンデを克服し社会性を育もうと考えている。



交流学習を終えて

中学生女子

私はこの三日間、関川中学校の人と一緒に学校生活を送る体験をしました。まず、授業面では、先生の話をよく聞くようにしたり、まだ習っていない単元でも挑戦するようにしました。特に英語の授業が楽しくできました。

次に交流面は、最初は声をかけてもらわないと話することができなかったけれども二日目からは自分から積極的に声をかけるようにしました。移動教室の時や給食、清掃の時などは楽しく会話のできたのでよかったと思います。それに最後のお別れの時に「来年も来てね。」と言ってもらったのがうれしかったです。

そして部活動では、テニス部に仮入部をしました。私は、以前テニスをやっていたけれども、半年以上やっていなかったの、思ったように打つことができませんでした。でも、やっていくうちに打ち方を思い出せたのでよかったです。

来年もいい交流学習にしたいです。

４ 生活科・総合的な学習の時間

○ 小学校

◇１・２年生活科 「馬と仲良し」

学校に近い栗島牧場で飼育している馬の世話活動を行い、ブラッシングやひづめの掃除、餌・水やりなどを体験した。また引き馬や乗馬の仕方を学んで実際に馬に乗ったり触れ合いを楽しんだりすることができた。

◇前期 3～6年 合同総合「粟島の地域のものや生き物について調べよう」

児童が興味をもった「粟島の動物・魚」「粟島の料理」「粟島汽船」「人の集まる場所」の4グループに分かれて調査活動を行った。「動物・魚グループ」は、郷土資料館や漁協、漁師に聞き取り調査を行い、粟島に昔いた粟島馬の歴史や粟島の魚の種類・漁の仕方について調べた。「粟島の料理グループ」は、民宿や観光案内所に聞き取り調査を行い、粟島の郷土料理の作り方や郷土料理の特徴について調べた。「粟島汽船グループ」は、粟島汽船に聞き取り調査を行い、粟島汽船の歴史や粟島汽船の乗客数の変化について調べた。「人の集まる場所グループ」は、観光案内所に聞き取り調査を行い、粟島にある憩いの場所や、民宿や店のことについて調べた。



それぞれ調べたことを模造紙にまとめ、文化祭で展示し、村民の方々に学習の成果を披露した。

◇後期 3・4年総合 「新粟島郷土料理を提案しよう」

前期に粟島の料理について調べたグループがいたことにより、子供たちは粟島の郷土料理に興味をもち始めてきていた。そこで、新粟島郷土料理を考えて、村民の皆様提案してみることとした。

最初に郷土料理にはどのような特徴があるのかを知るために、いろいろな都道府県の郷土料理調べを行った。その結果、郷土料理の材料にはその地域でとれるものが多く使われていることが分かった。

そこで、粟島でとれるものを挙げ、新粟島郷土料理を提案することとした。自分でメニューや材料、作り方を考え、1度試作品を作った。その試作品を基に改善を加え、新粟島郷土料理を地域の方に提案した。総合発表会で実際に新粟島郷土料理を食べてもらい、さらに改善を加え、観光協会に子供たちの新粟島料理を提案した。

◇5・6年総合

粟島に関連する内容について、各自が自分でテーマを設定し調査した。内容は馬、地震・津波、他の島との関連等である。留学生として粟島に来た児童たちばかりなので、1年間暮らした粟島について興味深く追求した。

馬について調べた児童は、野生の馬がいたとされる頃の馬と現在のいる馬との比較について、地震・津波について調べた子は、粟島が震源地となった新潟地震について調べその被害や現在の地震以前の地形の違いについて調べた。

他の島との関連は、粟島と他の島の郷土料理の違いなどについて調べ、実際に作った体験などを基に発表会で発表することができた。

○ 中学校

1年 「地域の行事と職場見学に向けて」

地域の行事である「内浦祭礼」の今と昔の違いと歴史について調査した。発表会では、職場見学に向けて、なぜ働くのか身近な大人にインタビューをして、自分なりの考えを発表した。

2年 「粟島のためにわたしたちができること」

「粟島」について学習し、粟島にはたくさんの魅力があることに気付いた。その一方で、高齢化が進み、課題もあるのではないかと考えた。そこで、粟

島のために生徒たちができることを考え、内浦と釜谷の清掃活動を行った。
また、地元で収穫できるタコやじゃがいも、アジなどを使い、新しい料理を提案した。

3年 「粟島の魅力の発信」

「粟島の観光の現状」をテーマに学習を進めた。観光協会の職員の方の講話や、今年度村が行ったイベントを基に粟島の観光事業をどう改善していったらよいのか提案した。

5 地域とともに

◇島びらきへの参加

毎年、5月2日、3日は粟島浦村の島びらきである。粟島汽船、村役場、民宿・旅館、地域、各企業、学校が一体となって島びらきを行う。事前に会議を重ね、当日訪れた観光客を全員でもてなす。小中学校は、小学校の総合学習の中から生まれた「島っ子ソーラン」を踊る。

今年度も4月から練習を始め、転入した留学生、小学校1年生も含め自主練習を重ね本番を迎えた。

2日、3日の船の到着に合わせて今年も小中学生全員で島っ子ソーランを披露した。大観衆の中、大きな拍手をいただき、終わった後は子供たちの満足げな笑顔でいっぱいだった。



島っ子ソーランを踊る子供たち

◇クリーンアップ作戦

6月21日（日）に、粟島クリーンアップ作戦に参加した。村の主催で、島外からもボランティアをつのり、一緒に活動した。当日、小学生は、ボランティアが到着する港で、歓迎の看板を掲げ中学生は、クリーンアップ作戦で使用するゴミ袋や軍手の配布を行った。また、実際にゴミ拾いに行き、ゴミの多さに驚いていた。



さらに小中学校単独で、「海岸清掃」や「町はき」を行った。この活動を通して、環境の美化、きれいな粟島の環境を守る意識を高めることができた。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他（

）

人口減

熊本県八代市の五家荘地区で10月初旬、久連子古代踊りが披露された。地域のイベントの舞台で、白い狩衣にえび茶の袴、鶏の尾羽で飾られた花がさ姿の5人が、鉦や太鼓をたたきながら、ゆったりと、時に尾羽を振り乱して舞う。古代踊り保存会の寺川博文さん(43)は「踊ったのはほぼ1年ぶりだ」と汗を拭いた。古代踊りは平家の落人が都をしのんで舞ったのが始まりとされる。五家荘地区の久連子の集落に伝わり、特に衰退の恐れが強く、記録に残す必要がある国の選択無形民俗文化財だ。ここ数年、地元の久連子ではほとんど踊られていない。「本来8人は必要だがそ



衰退 小中高生が救う



ろわない。久連子の住人も30人ほどに減り、80歳以上が10人、70歳代が10人だ。保存会前会長の嶽本広幸さん(84)は寂しげに語る。保存会の会員も約10人に減った。高齢化も進み、40歳代

部活で郷土芸能／離島に「留学」

でも若手だという。後継者難が深刻化するなか、地域の高校生が期待されている。八代市の私立秀岳館高校雅太鼓部は7年ほど前、嶽本さんの手ほどきを受けた。古代踊りは長男が継承する「一子相伝」だったが、寺川さんは「踊れる人がいなくなり『古代踊り』の名前だけが残っても仕方ない。八代全体で守らねばならない」と訴える。雅太鼓部では古代踊りが先輩から後輩へと引き継が

昨年の県高校郷土芸能代表選考会で久連子古代踊りを披露する秀岳館高校雅太鼓部の生徒(昨年12月、熊本県宇城市で)



秀岳館雅太鼓部は、熊本地震で大きな被害を受けた西原村の小学生らと交流し、支援活動にも励む(9月、熊本県西原村立河原小学校で)

れ、年末の県高校郷土芸能代表選考会で披露する。皆越友博君(18)(3年)は、昔の人が作った伝統を、自分たちが次の世代に伝えていきたい」と言う。昨年の選考会でも踊った寺本裕香さん(18)(同)は「卒業しても踊る機会があればぜひ行きたい」と話している。

*

新潟県粟島浦村は新潟市の北方約60kmにある離島だ。この島で全国的にみて特異な現象が起きている。総務省などによると、村の人口(1月1日現在の日本住民)は2012年の355人が13年は334人に減ったが、その後は増え続け、16年は363人まで回復した。

反転したきっかけは13年度から始めた粟島しおかぜ留学だ。村立粟島浦小中学校で毎年度10人ほどを受け入れる。現在、小学生、中学生各12人が在籍し、うち小学4人、中学6人が県内や関東などからの留学で、教職員も13人に増えた。村教育委員会の川村三千男教育長は「島への留学は広く知られるようになり、来年度は関西からの応募が増えた」と話す。

観光シーズン幕開けの「島びらき」、養殖作業の「ワカメ巻き」など島の日常は留学生にとって新鮮だ。笹岡凜さん(15)(中学3年)は「文化祭で小中合同劇をした。少人数のため一人一人の役割が重い」と充実した日々を送る。清田千尋さん(14)(同)は「島のおいしいちゃん、おばあちゃんがとても優しくしてくれる」と地域に溶け込む。

人口減は特に離島や中山間地域で加速する。歯止めをかけるには定住を促す雇用確保や医療の整備など課題は多い。それでも粟島浦村は3月にまとめた人口ビジョンに明記した。「人口を増やすための施策を実施し、それによって成果が出せれば、確実に村の将来人口を変えられることが出来る」(編集委員・渡辺嘉久、写真も)



2016年(平成28年)4月7日(木曜日)

新生活への誓いを述べるしおかぜ留学生や
新入生16日、栗島浦小中学校



栗島浦小中の入学式

島っ子も、「しおかぜ」の子も

栗島浦村の栗島浦小中学校で6日、入学式が行われた。島内の新小学1年生2人と新中学1年生3人をはじめ、島外から来て寮生活をしながら通学する「しおかぜ留学」の中学1年生2人の計7人が式に臨んだ。

生活を送る。

式では星和富校長(55)が「地域の人と交流を重ね、有意義な生活を送ってくださ」とあいさつ。在校生代表の中学3年、白石優希さん(14)は「新しい環境で困ることがあれば先生や先輩に聞いて、楽しい生活を送りましょう」と歓迎の言葉を述べた。

新潟市西区出身の留学生で中学1年の曾我れもんさ

ん(12)は「自然に囲まれた島がすぐに好きになった。乗馬体験が楽しみ」とほほ笑んだ。曾我さんの父、悟さん(52)は「体力、知識をのびのびと伸ばしてほしい」と娘の晴れ姿を見守った。

今回、中学3年で留学に臨む三条市出身の笹岡凜さん(14)は「少人数の環境で、島ならではの経験が積めることを期待している」と話した。